

6 月における水稻の病虫害の発生状況は以下のとおりです。  
巡回調査(69 地点)は、6 月中旬(13~16 日)、下旬(27~30 日)に実施。

### ○ いもち病

- ・6月中旬の調査では、1地点で残苗での発生が確認され、発生地点率は1.4%で平年(2.2%)並の状況でした。なお、本田への伝染は確認されませんでした。
- ・6月下旬の調査では、本田での発生は確認されませんでした。

### ○ ばか苗病

- ・6月中旬の調査では、発病株率は0.1%で平年(0.1%)並、発生地点率は11.6%で平年(9.2%)並の状況でした。下旬の調査では、発病株率は0.1%で引き続き平年(0.1%)並でしたが、発生地点率は18.8%で平年(7.9%)より高い状況となりました(図1)。

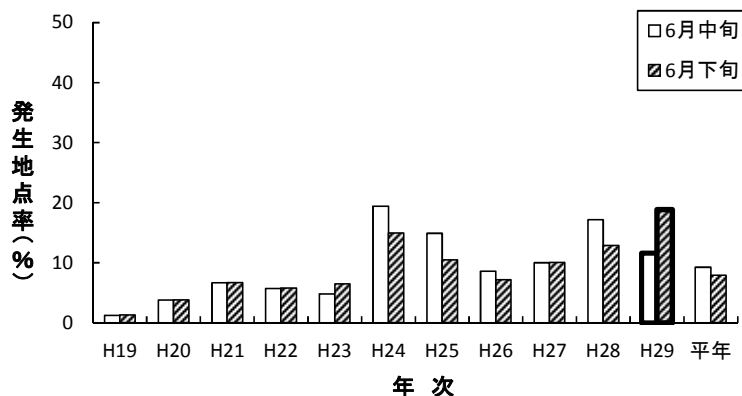


図1 ばか苗病の調査時期別発生地点率の年次推移

※平年:過去10か年平均

### ○ 紋枯病, 黄化萎縮病

- ・今回の調査では、発生は確認されませんでした。

### ○ 斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ)

- ・6月下旬の調査では、水田周辺の畦畔、牧草地及び雑草地におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率は76.9%と過去10か年で最も高く、すくいとり虫数平均は26.7頭で平年(15.4頭)を上回りました(図2)。また、アカスジカスミカメの誘引源となるイヌホタルイが、39%(病虫害防除所調査ほ場69地点中27地点)のほ場で残草していました。

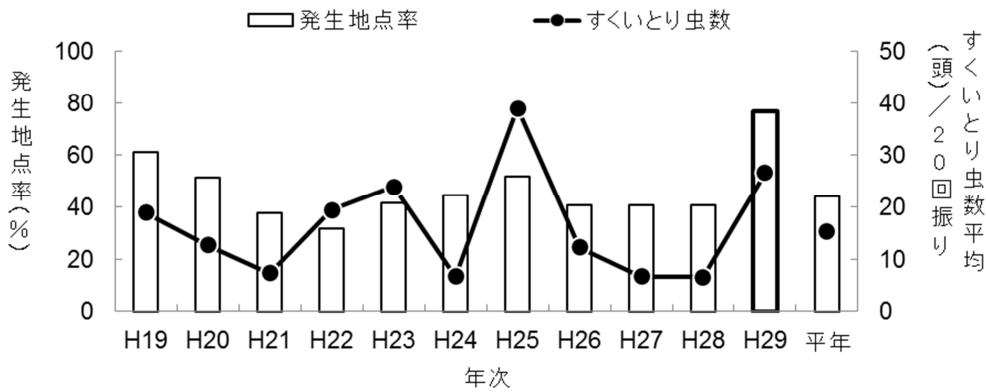


図2 水田周辺の畦畔，牧草地及び雑草地におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率とすくいとり虫数平均（6月下旬）

※平年：過去10か年平均

### ○ イネヒメハモグリバエ，イネハモグリバエ

・6月中旬の巡回では，イネヒメハモグリバエ被害の発生地点率は 23.2%で平年(17.3%)よりやや高く，イネハモグリバエ被害の発生地点率は 2.9%で平年(5.1%)並でした(図3)。6月下旬の巡回では，イネハモグリバエの被害は確認されませんでした。

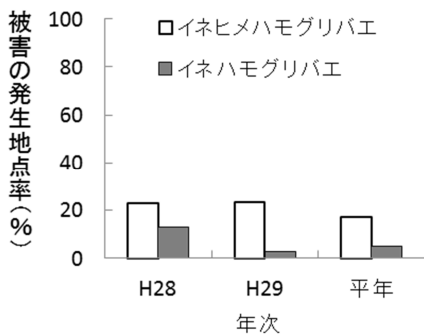


図3 イネヒメハモグリバエ及びイネハモグリバエ被害の発生地点率（6月中旬）

※平年：過去10か年平均

### ○ イネドロオイムシ

・6月中旬の巡回では，被害の発生地点率は 4.3%で平年(17.2%)より低く，6月下旬の巡回では 10.1%で平年(19.5%)より低い状況でした(図4)。

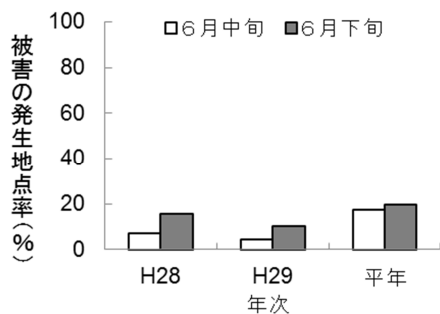


図4 イネドロオイムシ被害の発生地点率

※平年：過去10か年平均